

困難 同期と越えてゆけ

西濃各社で入社式

新年度のスタートとなった1日、西濃地域でも多くの企業が入社式を開いた。昨年は新型コロナウイルスの感染対策で規模を縮小したり開催を延期したりした企業が多くあったが、今年は新入社員同士の一体感を醸成する目的もあり、消毒やマスク着用といった対策を万全にしながらの開催に踏み切った企業が多く見られた。

(鈴木隆宏、柴田洋希)

大垣共立銀

大垣共立銀行はグループの入社式を大垣市加賀野のソフトピアジャパンで開いた。昨年はコロナ対策で出席者を限定して新入社員歓迎会として開いたが、今回は新入社員114人(同行80人、グループ会社34人)が一堂に会して行った。

境敏幸頭取は同行に入社する間瀬琴乃さん(22)に辞令を手渡し、「皆さんは時代の節目に社会人としてのスタートを切った。一つの時代を30年とくれば、30年後に私たちの時代は面白かったと言えるような活躍を期待する」と訓示。同行に入社する安藤蒼亮さん(23)が「いかなる困難に直面しても日々努力を惜しまず、同期とともに変化

を恐れず挑戦し続けることを誓う」と誓いの言葉を述べた。

西濃運輸

セイノーホールディングスの中核子会社の西濃運輸は、同市万石の大垣フォーラムホテルで出席者を限定して開催。全新入社員164人のうち営業乗務社員ら88人は配属先の全国12拠点から中継を視聴し、会場には総合事務職の新入社員76人が出席した。

小寺康久社長は自然災害やコロナ禍に触れ「われわれの仕事は有事にこそ真価が問われる。社会にいかにも必要とされているかを再認識し、気概を持って業務に取り組んでいただきたい」とあいさつした。辞令交付の後には、新入社員が誓いの言葉を述べた。



イビデン

イビデンは同市神田町の本社

で、グループの新入社員156人(イビデン106人、グループ会社50人)の入社式を開催。昨年はコロナ禍で7月に開催を延期したが、今回は十分な対策

大垣西濃信金

大垣西濃信用金庫は、昨年同様にも市恵比寿町の本店で実施。新入職員35人のうち、大垣ミナモトソフトボールクラブの選手2人を除く33人が出席した。栗田順公理事長は「主体的に考えて行動すること、変化に敏感かつ柔軟に対応すること、自身の課題を見つけ、毎日やるべきことを習慣化することの三つを常に意識してほしい」と訓示。新入職員を代表して清水優太さん(22)と田口佳歩さん(22)が「初心を忘れず、向上心を持って挑戦していく」と誓った。

境敏幸頭取に向け誓いの言葉を述べる新入社員。大垣市加賀野、ソフトピアジャパン